

## 重点推進方策Ⅱ 水田農業経営体の経営発展と 実需者ニーズに応える高品質米生産の推進 実需者ニーズに応える米生産

### 高品質米生産の推進 適期・適正栽培管理の徹底指導

#### ■背景とねらい

全県下で取り組む「1等米比率全国1位プロジェクト」に対応し、上伊那地域での米の品質向上を図るため、格落ち要因の課題に基づいた重点的な指導を行う。

#### ■本年度の取組と成果

##### 1 収穫作業等適期管理の徹底指導

伊那米総合試験地での水稻生育調査(6/5、14、23、7/4、14の5回)の結果をJA他関係機関に情報提供、水稻のDVIによる生育予測(6/26、7/6、12の3回)、収穫開始予測(8/14、24、9/5、20の4回)をHPに公開し、講習会等にも活用して適期収穫を呼びかけた。

本年度は7月下旬から9月にかけて著しい高温となり、出穂期及び成熟期が大幅に前進し、高温障害も懸念されたが、収穫時期も早められ大きな品質低下とはならなかった。

##### 2 斑点米カメムシ対策

斑点米カメムシの防除啓発を図るため、7月と8月に管内の水田と畦畔ですくい取り調査を実施した。主要加害種はホソハリカメムシ、次いでアカヒゲホソミドリカスミカメで、8月以降はアサジカスミカメが増加し、水田への侵入が確認された。出穂期に防除したにもかかわらず斑点米により2等に格落ちしたほ場も見られ、追加防除の必要性が示唆された。被害のあった伊那市内の農業法人に対して講習会を実施し、次年度に向けて対策を講じることとなった。

#### ■今後の課題と対応

JA集荷の水稻うるち玄米の1等比率は95.4%で、目標をやや下回った。格落ち要因の比率は斑点米を含む着色粒が70.4%、胴割粒が21.3%で、斑点米カメムシ対策で課題を残した。

次年度も、1等米比率の維持向上を図るため、引き続き啓発指導を行い、対策を進める。

(技術経営係 福本)

### 雑草イネ防除対策の推進

#### ■背景とねらい

上伊那管内の水田では、玄米が赤く、粃が脱粒しやすい雑草イネが発生している地域があり、収穫物への赤米の混入被害や発生拡大が懸念されている。雑草イネの防除技術の普及指導や啓発など、防除関係機関と連携して対策活動を実施する。

#### ■本年度の取組と成果

##### 1 農薬試験展示ほの設置

伊那市内の雑草イネ発生水田において、効果のある除草剤の3剤体系での効果試験を行った。

雑草イネの発生と埋設した水稻種子の出芽状況を合わせて4試験区の薬剤体系を評価し、無処理区と比較して効果が確認された。試験結果を元に雑草イネ対策指針の更新を行った。

##### 2 雑草イネ発生状況調査

雑草イネ発生地域の状況を把握し、発生拡大防止等の対策に資するため、8月にJA及び市町村と連携して発生ほ場を調査により特定し、地図に落とし込むマッピングを行い、発生面積を推定した。発生ほ場の耕作者に対しては市町村やJAから通知による啓発を行った。また、発生が拡大している地域では11月に雑草イネ対策講習会を開催し、次作に向けての防除指導を実施した。

##### 3 上伊那地域雑草イネ対策活動方針の策定

JA、市町村と連携した雑草イネ対策の体制整備を図るため上伊那地域雑草イネ対策活動方針を策定し、対策の実施方法などを共有した。

#### ■今後の課題と対応

これまでも雑草イネ対策が進められてきたが、発生が拡大している地域も見られる。多発ほ場においては転作指導など水田活用も考慮した対策を検討していく。

(技術経営係 福本)

# 土地利用型農業の安定生産推進

## 優良水稻種子の安定供給

### ■背景とねらい

「長野県主要農作物及び伝統野菜等の種子に関する条例」(令和2年4月1日施行)のもと策定された「長野県主要農作物種子生産ビジョン」に基づき、確実な優良種子生産に向けて採種技術に係る現地指導や巡回等に取り組む。

### ■本年度の取組と成果

#### 1 活動内容

##### (1) 指導会・現地巡回

###### ア 指導会等

栽培指導会を6月30日(24名参加)、研修会を12月18日(25名参加)に実施した。栽培指導会では、新規生産者にも考慮し、基本的な栽培管理や異系抜きなどの採種技術指導を行い、生産者により指導に沿った栽培管理が行われ、病害など目立った障害の発生は見られなかった。

###### イ 現地巡回指導

イネばか苗病への警戒のほか、健全な苗生産のため苗間巡回を2回に分けて実施し、育苗指導を行った。特に大きな問題はなく、田植えは順調に行われた。

##### (2) 種子生産に係る審査

###### ア ほ場審査

早生品種のあきたこまち・ひとめぼれと中生品種のコシヒカリで2回に分けて実施した。

審査時に問題があったほ場は指導を実施し、生産者の対応後に再審査を行った。審査の結果、不合格ほ場は倒伏による1ほ場のみであった(表1)。

###### イ 生産物審査(発芽試験)

発芽試験を100粒4反復/1ロットで実施し、すべてのロットで審査基準を満たし、全量合格とした(表2)。

しかし、種子の粒厚が十分ではなく、調製前では基準以下のものが4~5割と多く、肥培管理による種子の充実が課題となった。

### ■今後の課題と対応

次年度も研修会・指導会等による技術支援や厳正な審査を行うとともに、関係機関と連携して種子の混種・発芽不良などの事故防止、信頼性の高い優良な種子の提供に努めていく。また、今年度課題となった種子の充実性の向上については、追肥の改善を検討することとなった。

(地域第二係 青沼)

表1 採種ほ場審査結果

品種	筆数	第一次ほ場審査		第二次ほ場審査		最終合格率 (%)	不合格 原因
		実施日	合格筆数	実施日	合格筆数		
あきたこまち・ひとめぼれ	170	7月28日	170	8月24日	169	99.4	倒伏
コシヒカリ	23	8月7日	23	9月4日	23	100	-

表2 生産物審査結果

品種	ロット数	発芽試験結果			
		合格 ロット数	合格率 (%)	平均発芽率 (%)	発芽率の 最低限度 (%)
あきたこまち・ひとめぼれ	31	31	100	98.8	90
コシヒカリ	7	7	100	97.8	90